

令和7年 年頭所感

(※県連ホームページ掲載用)

『いつもの通りが如何に幸せか』

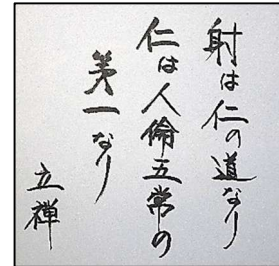
令和7年1月吉日

石川県弓道連盟会長 水橋 美喜夫

県連会員の皆様、明けましておめでとうございます。

西暦2025年、令和七年「乙巳（きのと・み）」の新年を迎えました。干支では生命力にあふれ、これまで努力してきたことが実を結びはじめる年だといわれています。

さて、年頭所感の投稿にあたり、今年は昨年大河ドラマに刺激を受けて短歌（らしきもの）を詠んでみました。能登の復旧・復興を願いつつ浮かぶ言葉を並べましたが、どうぞご笑覧ください。



「悲喜こもごも ないまぜにして聴く 除夜の鐘 ただ世の安寧を 念じて黙想す」
「昇竜道と 名づけられたり 能登半島 玉（ぎょく）を掴みて 春遠からじ」
「大震災 これが神の 試練なら 次は一陽 来復を祈る」
「生かされて 生きている今 お陰様 感謝と発心の 一步を踏み出す」
「禍も福も 少しずつあり この一年 弓引ける身の 有難きかな」
「あらがえぬ 天と地の禍を 受け止めて 離たれし矢に 幸あれと願う」
「射稽古も 日々の暮らしも また同じ 地道な工夫と 備えが要」
「日に新たに 日々に新たに 時過ぎて 少欲知足が 最善と悟る」
「神に佛に 波風なき世を 祈りつつ 無欲の射をと 願うも欲なり」
「釈迦の掌に 転がされてはや 70有余年 ほぼ平凡なる 枠に収まり」
「会者定離 艱難辛苦に 迷い道 逆境の人生 尽きることなし」
「上善は 水の如しか 意地張らず ねたまずひがまず 怒らずうらまず」
「幸せの 「はひふへほ」なる 至言あり 足るを知るこそ 最上の幸」
「世の中は 終焉と胎動の 繰り返し 畏怖の念持ち 耐えて開花を待つ」
「朝に目覚め タベは泰然として 床に就く 日々の安らかさ これこそ至福」
「生きとし生ける もののすべてに 平和あれ 大地の眠りよ そのまま永遠に」
「頑張ろう 能登の10年 20年 あきらめないで コツコツがこつ」

まだまだ日本列島各地で地震が続いています。さらに豪雨や豪雪などもあります。

能登の復旧・復興はいつになるのか分かりません。これを教訓にして災害に対する備えをもう一度確認しましょう。世の中は無常であり、常なるものなしと言いますが、「いつもの通り」に過ぎる毎日が如何に幸せなことかと、最近強く思います。

お互いに健康管理に留意して、怠らず弓の道に精進しましょう。